

「集中する」ことが困難な場合の支援例

幼児児童生徒のつまずきの状態例

幼稚園・小学校で

- 教科書やノートなど学習に必要なものを学校に持って来るのを忘れたり、音楽室等の特別教室に持っていきときに忘れたりする。
- 帽子や学用品などをよくなくす。
- 机の中やロッカーがいつも片付いていない。
- 活動に集中する時間が短い。
- 指示したことをすぐ忘れる。

中学校・高等学校で

- ボーとしていることが多く、周囲の生徒に比べて活動の開始が遅い。
- 授業中、周囲の音で気が散りやすく集中できていない。
- 自分で計画を立てて行動することができない。
- 準備や片付けに時間がかかる。
- 教科によって、あるいは活動の内容によって、集中する時間が大きく変わる。

行動観察のポイント

- 教師が話をしているときの幼児児童生徒の表情や活動の様子を観察する。
(活動が遅れる、目をそらす、落ち着かずにキョロキョロ辺りを見回す など)
- 興味や関心のあるものは何か、集中時間はどれくらいかを記録し、分析する。

つまずきの理解のポイント

聞いた言葉を記憶することが難しい。

聴覚的にとらえた情報を一定期間覚えておくことが難しい場合、口頭での説明や指示だけではその内容を十分に理解できないことがあります。そのため、指示とは違う行動をしたり、何をしたらいいのかわからなかったりします。また、宿題や提出物を忘れる、必要な連絡を忘れるといった状態も見られます。

集中する時間が極端に短い。

集中する時間が極端に短い(5～15分程度)場合、課題や活動を最後まで終わらせることが難しくなります。興味のあることには周囲の変化に気付かないくらいに集中できることもあります。興味や関心のないことにはほとんど集中できないことがあります。

注意がそれやすく集中して聞くことが難しい。

学級全体への指示が自分への指示だと気が付かずに指示を聞き落としている場合があります。また、集中時間の短さも関係して、話を聞いているうちに他の刺激に反応して集中が途切れてしまう場合もあります。

つまづきに応じた支援例

幼稚園・小学校で

- 連絡帳を活用する。
 - ・ 連絡帳記入の時間を確保する。
 - ・ 聴覚情報の苦手な子どもには、名前を呼んで注意を喚起したり、文字だけでなく、写真カードや絵カード等の視覚情報を活用したり、復唱したりする。
 - ・ 視覚情報の入力の苦手な子どもには、読み上げるなど音声情報も添えるようにする。
- 宿題を入れるファイル等を決めておき、学校でも家庭でも必ずそのファイルに入れることを習慣化する。(図22)
- 整理整頓の方法を具体的に指示する。
 - ・ 片付ける場所が分かりやすいように、絵や写真で表示する。
 - ・ 片付ける順序を分かりやすく知らせる。(図23)
 - ・ 定期的に片付ける時間を設定する。
 - ・ なくしたものがないか確認する。
- 自分の持ち物がすぐ分かるように大きく名前を書いたり、シールをはるなど印を付けたりする。
- 持ち物をできるだけ少なくしたり、持っていくものを一箇所にまとめておいたりする。(図24)
- 残り時間を視覚的に把握できるような道具を用意する。(写真6)

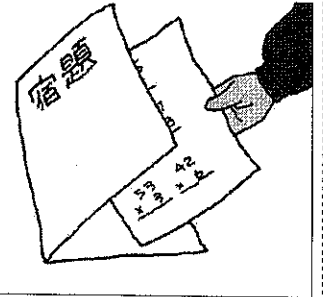


図22 宿題ファイル

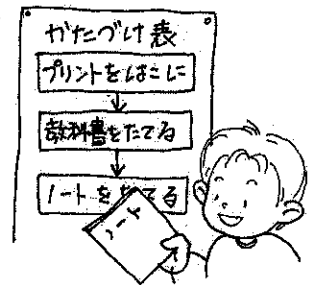


図23 片付け表

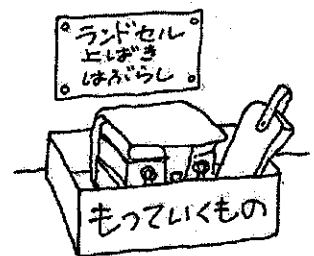


図24 もっていくもの

中学校・高等学校で

- 周囲の生徒が気になって授業に集中できないときは、最前列の座席にする。
- 授業中はできるだけ視線を合わせるようにする。
- ロッカーの中を整理した写真を扉の内側にはり、できるだけその状態を保てるようにする。
- 大切な連絡はICレコーダーや携帯電話のボイスメモに録音し、時間を決めて聞き直すようにする。

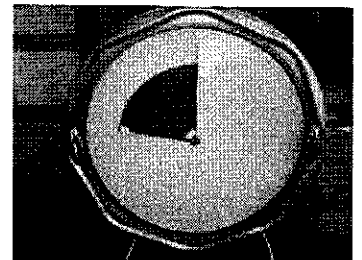


写真6 残り時間の視覚的理解

「社会性」に困難を示す場合の支援例

幼児児童生徒のつまずきの状態例

幼稚園・小学校で

- 相手に合わせて言い方を変えられない。
- 初めての場所や場面で落ち着かず、いつまでもそわそわしたり、不安がったりする。
- 時間割や日課・行事の急な変更があったときにスムーズに適應できない。
- 特定の玩具やテレビ番組、本、食べ物、色、形、順序、話題等へのこだわりが強い。
- 興味が限られていて、同じ遊びを延々と続ける。

中学校・高等学校で

- 場の雰囲気や暗黙のルール、相手の表情などを理解できない。
- 特定のものや、順序性についてのこだわりがある。
- 会話の内容に偏りがあり、自分の興味のある話題について延々と話す。
- 人に含みのある嫌み等を言われても気付かない。

行動観察のポイント

- 学校・家庭を問わず生活全般での幼児児童生徒の表情や活動の様子を観察する。
(友達とのかかわり、視線、興味・関心、パニックになる状況など)
- 見た目のこだわりだけでなく、細かな観察を通して小さなこだわりも把握する。

つまずきの理解のポイント

第三者の立場に立って考えることが難しい。

第三者の立場に立った考え方ができにくい場合、相手の気持ちを推し量ったり、自分の行動が相手にどのように受け取られるかを予測したりすることが困難になります。相手の感情を無視した発言をしたり、場に合わない表現をしたりします。

話の内容を理解することが難しい。

年齢相応の語いを身に付けていない、あるいは身に付いていても一つの語いについてのイメージが不足している場合、会話によるコミュニケーションがうまくいかなくなります。冗談やメールを言葉どおりに受け取って友人どのトラブルに発展することもあります。

同一性保持の傾向が強い。

活動の順序性へのこだわりが強い場合、順序を変更されると活動の見通しがもてなくなります。自分が予定していた内容と違ったり、直前に計画が変更されたりすると、うまく適應できず、戸惑ったり、パニックを起こしたりします。

興味のある対象が限定されている。

興味や関心のあるものが限られている場合、会話の内容にバリエーションがなかったり、周囲に自分の話したいことだけを話したりします。

【参考資料】

国語科の授業における支援の展開例

1 単位時間の授業における支援の展開例として、「読むこと」、「書くこと」、「集中すること」に困難を示すA児が在籍する学級の授業を紹介する。授業は小学校第5学年国語科「人と『もの』との付き合い方」のものである。

本時(1/15)

○ 全体目標

教材文を読み、身近な環境問題について自分の生活を振り返りながら調べてみたい課題を考える。

○ A児の目標

言葉の意味を確かめながら、友達の発表や教師のヒントを基に調べる課題を考える。

※ 吹き出しは、実際の反応

主な学習活動	児童全体への支援と反応	A児への支援と反応
<p>1 ペットボトルの水から「環境問題」について考える。</p> <p>(1) 提示された2種類(学校前の川の上流と下流)の水のどちらなら飲めそうか考えてその理由について話し合う。</p> <p>(2) 環境問題について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の前を流れる川の水を提示することでより身近に感じられるようにする。 「上流の方がきれいだから飲めそうだよ。」 「どっちも飲めるよ。」 「川にごみが落ちてるから飲みたくない。」 川や海岸のよごれ 自然破壊 ごみ問題 地球温暖化 生き物の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を提示する。 答えやすい質問を投げ掛ける。 「どっちもきれいそうだから両方飲めるわ。でもよく見るとごみが入ってる〜。」 「環境問題」という言葉について説明する。 「ごみ〜。川とか道にごみがいっぱい落ちてるもの。」
<p>2 単元名について考え、活動を見通す。</p> <p>○ 伝え合って考えるとはどういうことか。また、何について考え、伝え合うのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「意見をどんどん出し合って考えるってことね。」 「伝え合って考える」ことについて補足説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発表を最後まで聞いて考えることが大事な勉強であることを説明する。 「なるほど・・・。」
<p>3 教科書を読み、調べてみたい課題について考える。</p> <p>○ 先に出した環境問題とあわせて、どの環境問題にもごみ問題がかかっていることに気付く。</p>	<p>人と『もの』との付き合い方</p> <p>みなさんは、「環境問題」というかへまが、身近な川がよ、わくわく。空気がさなくなっていく。ごみが増える。地球の温度が高くなっている。生き物のすがたを見失っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「デジタル教科書は文字も大きくて、読み仮名も付いていて読みやすいぞ。」 「何を課題にしようかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材を提示する。 「読み仮名が付いていて読みやすいな。」 文末を勝手に読み替えてしまわないように補助する(机間指導)。
<p>4 次時の学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でもごみの問題について話し合うようにし、課題を決めるヒントにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 意識が教師に向いているか確かめて、次時の予告をする。

本時(3/15)

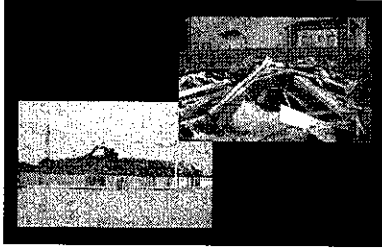
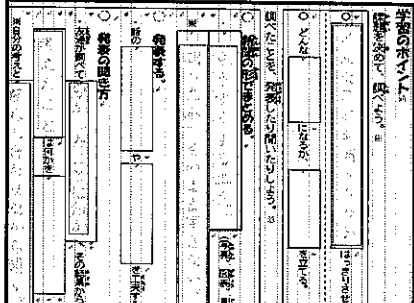
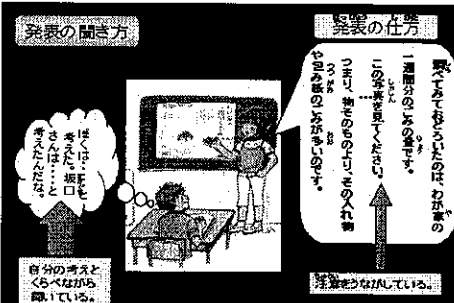

○ 全体目標

前時で読んだ教材文の疑問点について話し合った後、学習の流れを知り、調査計画を立てる。

○ A児の目標

学習の流れを理解し、教師のヒントを基に課題を決める。

※ 吹き出しは、実際の反応

主な学習活動	児童全体への支援と反応	A児への支援と反応
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>○ 感想をまとめ、疑問に思うことや詳しく知りたいことなどを話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ノートにまとめておいたことや友達感想を基に考えたことなど</p> </div>	<p>□ 前時の学習を想起するために写真を提示する。</p> 	<p>□ 注意を向けるように声を掛け、友達感想を静かに聞く。</p> <p>□ 写真についての質問をすることで、内容を確かめられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「そうそう、ごみのことについて考えるんだっつけ。」</p> </div>
<p>2 今後の学習の流れを確かめる。</p> <p>(1) 教科書を読む。</p> <p>○ デジタル教科書を基に活動のポイントをおさえながら読む。</p> <p>(2) 学習の流れを確かめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈大まかな学習の流れ〉</p> <p>① 課題を決めて調べよう。</p> <p>② 調べたことを発表したり聞いたりしよう。</p> <p>③ 自分の考えを文章に書こう。</p> </div>	<p>□ デジタル教科書を基に活動のポイントをおさえながら読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>2 調べたことを発表したりしよう。</p> <p>どんな課題に、どのように取り組むかは、どのようであったかをまとめて発表し、必要に応じて、写真・図表・具体物ながら、聞く人にも分かるように立てて話し方を工夫しよう。</p> <p>友達の発表の中で、自分が知らない情報には、どんなものがあるでしょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「読み仮名が付いているとぼくたちも読みやすいな。ワークシートも選べてよかった。」</p> </div>	<p>□ 読み仮名付きのデジタル教科書を順番で読む。</p> <p>□ 枠のみ、穴埋め式、透かし文字入りワークシートから選択して取り組む。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「どのワークシートにしようかな。透かし文字があると書くのも早くできるし、楽しいな。」</p> </div>
<p>(3) 学習を進めるときのポイントについてまとめる。</p> <p>○ ワークシートをまとめながら活動のポイントを確認する。</p> <p>○ 時間配分も知らせ、時間内でできる活動内容で行うことを確かめる。</p>	<p>□ スクリーン上でワークシートをまとめながら活動のポイントを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発表の聞き方</p> <p>発表の仕方</p> <p>発表の仕方</p> <p>発表の仕方</p> </div> 	<p>□ 机間指導で書く作業を細やかに見取り、励ます。</p> 

(本資料は、平成18年度県総合教育センター長期研修者の加藤研一郎教諭の報告書から抜粋したものである。)